

「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

神 戸 大 学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学評価

大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会を取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

対象機関の現況

神戸大学の前身は、神戸経済大学（明治 35 年設置の神戸高等商業学校）、同予科、同附属経営学専門部、姫路高等学校（大正 12 年設置）、神戸工業専門学校（大正 10 年設置の神戸高等工業学校）、兵庫師範学校（明治 7 年設置の兵庫県師範伝習所）及び兵庫青年師範学校（大正 8 年設置の兵庫県立農学校甲種別科）をもつ、新制大学として昭和 24 年に発足した。発足当初は、文学部、教育学部、法学部、経済学部、経営学部及び工学部の 6 つの学部及び経済経営研究所から構成されていたが、その後、昭和 29 年に文学部が文学部と理学部に分離され、設立当初の社会科学系中心の大学が徐々に人文・人間科学、社会科学、自然科学の学術系列を整備した総合大学へ発展した。さらに、昭和 39 年と昭和 41 年には医学部と農学部がそれぞれ兵庫県立神戸医科大学、兵庫県立兵庫農科大学を国立移管して設置された総合大学である。

現在、神戸大学は、文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、医学部、工学部及び農学部の 10 学部と文学研究科（修士課程）、総合人間科学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、医学系研究科、文化学研究科（後期 3 年のみ）、自然科学研究科及び国際協力研究科（以上は博士課程）の 9 大学院及び経済経営研究所の 1 研究所で構成している。附属図書館は、人文・社会科学系図書館、人文科学系図書室、自然科学系図書館、国際・教養系図書室、人間科学系図書室、医学部分館及び医学部分館名谷分室の 7 館室があり、学部と大学院の教育・研究をサポートしている。学内共同教育研究施設は、総合情報処理センター、共同研究開発センター、遺伝子実験センター、バイオシグナル研究センター、大学教育研究センター、留学生センター、機器分析センター、内海域機能教育研究センター、都市安全研究センター、アイソトープ総合センター、分子フォトサイエンス研究センター、水質管理センター、低温センター及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの 14 施設がある。

これらの施設のうち、ほとんどの施設（事務局を含む。）は神戸市灘区六甲台町の六甲山麓の斜面に在り、その高低差は 100 m にもなる。

また、事務局から西に 10 km 離れた神戸市中央区楠町に医学系研究科医科学専攻（医学部医学科）及び附属病院、さらに西に 10 km 離れた神戸市須磨区友が丘に医学系研究科保健学専攻（医学部保健学科）、この他に、兵庫県加西市鶉野町に農学部附属農場、淡路島北部の兵庫県津名郡淡路町に内海域機能教育研究センターがあり、大学の施設は兵庫県内に点在している。

神戸大学には、学部学生が 11,982 人と大学院生が 4,095 人の 16,790 人（うち 713 人は外国人留学生）が在籍しており、1,314 人の教員が、講義及び学生の指導に

あたっている。

教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

大学の使命としての社会貢献

大学は第一に次代を担う人材の育成をその使命とする。本学では幅広い専門分野の研究者を擁する総合大学の利点を活かし、また実践的能力の育成に重きを置いた前身諸校からの伝統を継承して、多数の優秀な人材を輩出してきた。大学の第二の使命は真理の探求ないし学問の継承と発展である。本学は総合大学として人文、社会、自然科学系の学部・研究科、附置研究所がバランスよく配置され、今日次第に重要性を増している学際的領域にも力を入れて研究を推進し、その成果を通じて社会の進歩と安定に貢献してきた。

教育サービス面における社会貢献

本学は教育と研究を通じて、社会に貢献してきたが、「教育サービス面における社会貢献」とは、それとは異なった教育サービスのあり方に対する社会的要請ととらえることができる。すなわち、当該大学に在籍する正規の学生以外の対象者に対する再教育や生涯教育の機会を与えることがここでの課題である。このような社会的教育サービスの要請が近年大きくとりあげられるようになった背景には、人々の生活を取り巻く急激な環境変化がある。科学技術の進歩や経済のグローバル化の進行によって、とりわけ職業人の再教育が焦眉の課題とされている。また、生活水準の向上は、社会の高齢化とあいまって、人々の価値観に変化をもたらした。健康、余暇、生き甲斐、自然との共生、異文化や地域社会への関心の高まりが、大学による高度の生涯学習への期待を膨らませた。本学はこのような幅広い社会からの要請と期待に、公開講座、各種の研修・セミナー、インターネットなどのメディアによる情報の提供を通じて、積極的に応えていくことを、大学の重要な使命であるととらえている。なお国際都市神戸という、本学のおかれた地理的、歴史的背景から、本学においては国際交流ないし国際協力の分野における社会貢献が重視されてきた。この面での貢献については、平成14年度の大学評価のテーマでもあるので今回は割愛する。しかし、「教育サービス面における社会貢献」に関しても、それは本学の重要な特色を示すものであり、従来とも高い社会的評価を与えられてきたことを付記しておく。

教育サービス面の社会貢献に関する本学の考え方については、最近の大学改革に際してまとめられた『躍動する神戸大学』（1993）にも示されている。すなわち研

究と人材育成の二つの伝統的使命に加えて、第三の社会教育的サービスについては研究成果の社会的還元に対する要請が年々強まっていること、研究成果を何らかの形で社会に還元することは開かれた大学としての責務であること、が明記されている。

確かに教育サービスの拡大に対しては、力が分散され、本来の教育・研究面にマイナスの影響を及ぼすという懸念も表明されている。しかし本学は、「社会との積極的交流を通じて研究が刺激を受け、大学のダイナミズムにつながる」というプラスの面をより重視し、教育サービスの適切な内容と方法について検討を重ね、その実践化に努めてきた。

2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

(1) 目的

本学は従来から大学の教育サービス面における社会貢献の重要性をよく認識し、「開かれた大学」を目指して（地域）社会との交流に積極的努力を重ねてきた。相互に重複する部分もあるが、その基本目的は次の4つに大別しうる。

その一は、社会的啓発である。その意図するところは、地域住民が関心を抱く諸問題について学問的な基盤にもとづいて指針を示したり、助言を行って、問題の理解を深め、あるいは解決に向けて協力すること、また生活を豊かにする知識や技術の教授である。

その二は、各種の資格取得を目指す人々の支援（社会的支援）である。資格取得に必要な科目を履修し、あるいは要求される技術を修得する機会の提供である。

その三は、研究成果・情報の公開である。より高度な研究成果の発表や最先端の学術情報の提供を目的とする。

その四は、生涯教育の場の提供である。図書館やスポーツ施設の開放、催しものの開催を通じて、地域社会に生涯教育の場を提供し、あるいは豊かな市民生活の実現に貢献することを目的とする。

以下、目的ごとに本学の特色を示すいくつかの活動をとりあげ、その概要と目標について説明する。

(2) 目標

上記の目的を実現するために以下のサービスを提供し、地域社会との交流を密にする。

1) 社会的啓発に関連して

公開講座

社会的関心の高い問題を取りあげ、人文、社会、自然の広い分野にわたる講義を通じて、市民に問題を総合的に把握・理解させることを目標とする。

科目等履修生・聴講生

社会人のリフレッシュ教育や生涯教育を目標とする。

出張教室

中学・高等学校のカリキュラムにない、あるいは不十分な取り扱いしかできない分野について生徒の理解を深め、関心をもたせることを目標とする。

体験入学制度

若年層とくに高校生に本学での授業に触れさせ、学問への関心を育ませるとともに進路選択に役立たせることを目標とする。

2) 社会的支援に関連して

営農技術大学講座

地域の特性をふまえた農業経営、高度化した生産技術、後継者問題など最近の農業問題に関する多様な相談、指導を目標とする。

資格取得の支援等

科目等履修生・聴講生制度を活用して教職免許・学芸員資格等の取得支援を目標とする。特許取得の支援を目標とするセミナーなど。

3) 研究成果・情報の公開に関連して

ワークショップ・シンポジウム・講演会

教官の研究や学術研究の進展について情報を提供し、比較的高い学識を有する市民や企業との交流を図ることを目標とする。

所蔵資料の公開

本学所蔵の貴重な資料を公開し、社会人の研究を支援する。

4) 地域社会のニーズに応じたサービスの提供・施設の開放に関連して

図書館の開放

心と健康の相談・指導活動

少子化、高齢化、自然・社会・経済環境の悪化などが複雑にからみあって、今日心身の健康に不安を訴える者や育児の悩みを抱える市民が増加しており、そういった人々に対して本学のいくつかの部局は相談・指導にあたり健全な市民生活の環境形成に貢献することを目標とする。

3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

(1) 社会的啓発に関して次の取り組みがなされている。

1) 公開講座

本学では、大学全体、数部局共同、各部局・学科、あるいは外部の組織と共催等の形で毎年公開講座が開催されている。

全学レベルの公開講座は神戸大学公開講座委員会がその年度のテーマを設定し、全部局から講師を選出して人文、社会、自然にわたる幅広い見地から講義を行う。

市民のニーズ・関心に適したテーマ、内容、水準を保つために終了後受講生にアンケート調査を行い、次回以降の参考にしている。

社会科学系5部局は毎年順番で、政治、経済、経営問題を中心とした講座を開催している。平成10年度は経営学部、11年度は法学部、12年度は経済経営研究所が担当した。

文学部、国際文化学部、発達科学部、理学部、医学部、工学部、農学部は学部単位の講座を開催している。

理学部は本年は過去の公開講座を見直し、講演とセミナー（簡単な実験を含む）形式のサイエンスセミナーに変更した。

医学部保健学科、発達科学部では学部単位の講座とは別に学科単位の公開講座も開催している。

上記のほか多くの部局の教官は他大学、県や市が主催する公開講座に講師として参画している。また上記全学および学部単位の講座は県下多数の大学と県が連携して提供する「ひょうご講座」の一環として行っているものである。

2) 科目等履修生・聴講生

平成12年度に科目等履修生を受け入れた部局は文学部(4名)、国際文化学部(3名)、発達科学部(64名)、法学部(3名)、工学部(1名)、農学部(2名)、総合人間科学研究科(6名)、経済学研究科(3名)、経営学研究科(15名)である。

平成12年度に聴講生を受け入れた部局は文学部(23名)、国際文化学部(5名)、発達科学部(8名)、法学部(4名)、工学部(1名)、農学部(平成13年度1名)総合人間科学研究科(2名)である。

3) 出前教室・出張授業

理学部は兵庫県下の高等学校13校の生徒に対して出張授業を行っている。平成12年度は物理学科が行ったが、今年度は全学科で実施に向けて準備中である。

経営学研究科は平成12年度に和歌山県立桐蔭高校で出張授業を行った。

4) 体験入学・オープンキャンパス

体験授業

国際文化学部、発達科学部、工学部はキャンパストリアル2000の一環として県下高校生に体験入学を実施

した。

理学部：生物学科と物理学科は高校生用のプログラムを作成し、講義と施設見学を内容とする体験入学を実施した。

オープンキャンパス

各学部が大学案内、施設見学、ミニ授業をセットにしたオープンキャンパスを実施した。

5) その他

医学部では「のじぎく会」を通して献体の啓蒙活動に、また動物実験の必要性を中高生に解説するパンフレットを作成して啓蒙活動にあっている。

(2) 社会的支援に関して次の取り組みがなされている。

1) 身障者支援

解剖実習見学

医学部は県下盲学校において解剖学実習見学の機会を与えた。

医療的ケアへの支援

医学部・保健学科は肢体不自由養護学校における療育プログラムを開発し、巡回指導を行っている。

2) 技術開発・産業振興

特許セミナー

工学部は特許出願の解説を学外弁理士を招いて実施。本学の教職員、学生の他に卒業生も参加可能である。平成12年度の参加者は52名。

工学部リエゾンラボ

神戸市復興支援工場内の工学部サテライト研究室を会場として産学連携研究を行う。省エネ空調システムに関する技術セミナーを年2回実施。

営農技術大学講座

農学部は三田地区の農業関係者を対象に平成11年8月に「田園都市における農業の機能と役割」をテーマとする技術大学講座を開催した。2日間で8講義が行われた。

(3) 研究成果・情報の公開に関して次の取り組みがなされている。

1) ワークショップ・シンポジウム・講演会

ワークショップ

経営学研究科では現代の企業経営にかかわる個別テーマについて、専門的に深く議論するワークショップを年4回の頻度で開催している。ワークショップでの報告、討議の内容は経営学研究科の機関誌に特集の形で掲載される。

医学部は、地域の医療、福祉、保健の向上のためのネットワークのあり方、これに関与する人々のつながりについてのワークショップを年2回開催している(兵庫医療情報研究会)。

工学部は平成12年6月と11月に「地震防災ワークショップ」を開催した。発展途上国におけるライフラインの防災がテーマである。

シンポジウム

国際文化学部では毎年国際シンポジウムを開催している。平成12年度のテーマは「アメリカニズムの21世紀」であった。また教官、院生、学生を中心に結成された神戸大学国際文化学会主催のシンポジウム「世界の芸術文化環境と地域社会」を平成13年6月に開催した。

経営学研究科は現代の我が国の企業経営を取り巻く諸問題を取りあげ、学界人や産業人による基調講演、経営学研究科教官による問題提起、そして産官学の専門家によるパネルを内容とするシンポジウムを毎年開催している。平成12年のテーマは「環境経営と企業評価の最前線」であった。

医学部は平成12年10月に国際シンポジウム「子宮内膜の機能と病態の分子メカニズム」を開催した(オックスフォード大学と共催)。このシンポジウムは新薬の開発・企画にかかわる社会人の参加を積極的に受け入れて行われた。

講演会

工学部機械工学科は平成3年に発足させた研究講演会「若手教官は今」を平成12年度も12月に開催し、2名の教官が最新の研究とその社会的意義をわかりやすく講演した。工学部ではほかに大学祭参加者を対象とする「機械工学先進研究」講演会を毎年開いている。

経済経営研究所は毎年2月に神戸商工会議所と共催の「経済フォーラム」を開き、時事経済問題をわかりやすく解説する。

セミナー・報告会

国際文化学部は将来アジア・太平洋地域での活躍が期待される人材育成を目的とする学術セミナー「比較文化論 - アジア・太平洋地域における人・社会・自然」を本年8月に開催するための準備を進めてきた。昨年5月に発足したアジア・太平洋地域と兵庫地域の大学間知的交流機関(HUMAP)との共催である。

工学部は地域産官学の連携を深めるための研究発表会「工学部サミット」を本年1月より毎月開催している。

地震災害調査報告会(工学部)は、平成12年10月と13年4月に地震災害の現地調査に基づく報告会を行った。

2) 所蔵資料の公開

所蔵資料の公開

山口哲子記念事業の一環として哲子の遺品をはじめ日本文学関係の資料を展示した。

震災文庫の公開

人文社会科学系図書館に設置された震災文庫では阪神・淡路大震災に関わる資料を公開するとともに、資料のデジタル化を進めインターネット上でも閲覧しうるようにした。

3) データベースの作成・公開

国際文化学部 商工会議所やマスコミを通じてテーマを募集し、各種データベースを作成し、依頼先に納入している。

医学部保健学科 大阪府下276の老人保健介護施設等

のサービス内容，人員等に関する介護データベースの作成・公開（平成 11 年度から継続）。また WHO 疫学週報を翻訳しこれを保健学科のホームページに公開している。

シラバスの公開 医学部では一部講義のシラバスを図書館ホームページで公開している。

（４）その他の地域社会サービス

地域社会のニーズに対応したその他の教育的サービスとして次の取り組みがなされている。

１）施設の開放

附属図書館の開放

本学では人文社会科学系図書館をはじめ各館・室は社会人に開放されており，コピーサービスも行っている。夜間・土曜日も（一部では日曜日も）開館し，社会人の利用にも便宜を図っている。

２）心と身体健康相談・指導

発達科学部の心理教育相談室は平成 4 年 12 月に発足した心理発達相談室を受け継いで昨年 6 月開設されたもので，総合人間科学研究科の臨床心理学コースの研修の場である。開設以来 1 年で 23 件の相談に関わり，相談回数は 120 回を超える。

腎臓疾患を持つ親子の会

医学部では平成 12 年に会を設置し，腎疾患についての勉強会を行っている。

育児指導・ぴっころの会

極低出生体重児のための教室を開き，育児指導を行う。また「ぴっころの会」（附属病院周産母子センターを退院した未熟児とその両親の会で平成 6 年設置）において，育児に関する講演会，勉強会，親睦会を開催し未熟児を持つ両親の不安の解消に貢献している。

成人病に対するケア

糖尿病患者を対象として病態や治療方法に対する指導を行っている。

評価結果

1. 目的及び目標を達成するための取組

神戸大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、公開講座、科目等履修生・聴講生の受入れ、出前授業、体験授業、オープンキャンパス、解剖実習見学、養護学校での医療的ケア、特許セミナー、営農技術大学講座、ワークショップ、シンポジウム、講演会、セミナー・報告会、日本文学関係の所蔵資料の公開、震災文庫の公開、介護データベースの作成・公開、WHO疫学週報の翻訳・公開、図書館の開放、心理教育相談室などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

公開講座については、全学的公開講座、いくつかの関連部局が共同で企画する講座、部局ごとの講座並びにかなり限定された問題群をテーマとする学科レベルでの講座が毎年提供されており、多種多様な講座が用意されている。全学的企画は主に一般市民を対象として広範なテーマで実施されている。発達科学部の学科ごとの講座は少人数制による体験型で実施されており、理学部のセミナー型の講座でも講義に加えて実験を取り入れるなど実施形態に工夫がみられる。文学部では、カルチャーセンター化を避け、よりアカデミックなコースが用意されている。参加者に対するアンケート調査も行われており、広く社会的ニーズに対応した内容が提供されている点で特に優れている。

高校の依頼により講師を派遣する出前授業や体験授業など、高校生を対象としたこれらの取組について、実際に授業や実験を体験させたり、研究室を開放し説明や質問への対応を行うなど、その内容・方法に工夫がなされている点は、大学の授業内容や研究に触れる機会を提供し、学問に対する関心を喚起する取組として優れている。

経営学研究科におけるワークショップは、現代の企業経営にかかわる個別テーマについて、大規模な会議形態であるシンポジウムに比べて比較的少人数で実施することにより、専門的に深く議論する機会が提供されている点で優れている。

また、ワークショップでの報告や討議の内容を、経営

学研究科が組織する現代経営学研究学会の機関誌に特集として掲載しており、当日参加できなかったビジネスマンなどの受講希望者に対しても配慮がなされている点で特色がある。

「営農技術大学講座」は、農業生産の振興と農村の活性化の必要性に鑑み、三田地域の農業関係者等を対象に、地域の特性を踏まえ実施されている。農学研究で培われた基礎的及び応用的知的技術を提供し、新しい営農感覚の養成や栽培技術の向上、更には地域活性化、リーダーの育成等の現地の要望に込めている。

この他、社会的支援として取り組まれている「特許セミナー」、「解剖学実習見学」等についても、サービス対象者を明確に絞り実施されており、サービス享受者のニーズを反映した取組内容となっている点で優れている。

「震災文庫」は、阪神・淡路大震災被災地にある当大学の責務として数多くの貴重な震災資料等を公開しており、防災に対する啓発活動として有意義なものとなっている。本取組は、インターネットによる公開や平成12年の開設五周年記念講演会の開催など積極的に展開されており、大学の特性を活かし、地域社会のニーズに応じたサービスを提供する取組として特色があり優れている。

肢体不自由養護学校における医療的ケアへの支援は、個々の子ども達に対する医療的ケアの問題点等について発達相談、個別相談の実施、医療的ケアに関する手引書整備の支援並びに教職員等を対象とした研修指導等を通じて実施されており、教職員、家族に対する指導等を通じて地域社会に貢献する取組として優れている。

心理教育相談室は、心身の健康に不安を訴える人々に対して心理学の専門的な立場から相談・指導を行い、健全な市民生活の環境形成に向けて取り組まれており、地域社会のニーズに応える取組として優れている。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

2. 目的及び目標の達成状況

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

神戸大学公開講座については、定員充足率をみると平成9年度以降平均8割以上で推移しており、また、参加者に対するアンケート調査で、来年度の受講希望について約8割が積極的な回答を示している点で成果を得ている。

しかし、資料や OHP、スライド等の使い方等について改善を求める意見が毎年見受けられる点や、阪神地区の大学や自治体により多数の公開講座が開講されたこともあるが、応募者が漸減傾向にある点で改善の余地がある。

高校生を対象に体験授業について、平成12年度に実施された「キャンパストライアル 2000」の参加者に対するアンケートの結果をみると、その7割以上が「難しい内容はあったが、結構おもしろかった」と回答しており、感想をみても大学の授業に関心を示す内容となっていることから満足度が高く成果を得ている。

高等学校に出向いて実施される出前授業について、参加した高校生の感想をみると、とても良かった、大変興味をもったなどの感想を得ていることから満足度が高く成果を得ている。

「震災文庫」については、平成7年11月から神戸大学電子図書館システムとして資料を電子化し、インターネット上で公開しており、学外からのアクセス件数は、月平均で平成11年度約2,200件、平成12年度約2,500件となっている。月別に増減はあるが漸増傾向にあり、成果を上げている。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

出前教室・体験授業・オープンキャンパスにおいて、参加者の意見聴取やアンケート調査が実施され、得られた意見等の検討をそれぞれの運営組織で行っている点は、改善のためのシステムとして優れている。

「教育サービス面における社会貢献」として行われている各種取組について、そのほとんどは部局の自主性により実施されているため、多様なサービスが用意されている反面、全学的な調整等が十分でない企画も多く、サービスの重複や期間の接近といった問題などが生じており、また、個々の活動のノウハウが共有財産として十分に生かされていないことから、改善が十分に図られていない。各種取組の効果的な実施に向け、全学的に企画・運営・改善等を図る体制について改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。

評価結果の概要

1. 目的及び目標を達成するための取組

特に優れた点及び改善点等

公開講座は、多種多様な講座が用意され、参加者に対するアンケート調査も行われており、広く社会的ニーズに対応した内容が提供されている点で特に優れている。

高校生を対象とした出前授業、体験授業等は、授業内容・方法に工夫がみられる点で、大学の授業内容や研究に触れる機会を提供し、学問に対する関心を喚起する取組として優れている。

経営学研究科におけるワークショップは、比較的少人数で実施することにより、専門的に深く議論する機会が提供されている点で優れている。また、参加できなかった受講希望者に対しても配慮がなされている点で特色がある。

「営農技術大学講座」、「特許セミナー」、「解剖学実習見学」等は、サービス対象者を明確に絞り実施されており、サービス享受者のニーズを反映した取組内容となっている点で優れている。

「震災文庫」の公開は、大学の特性を活かし、地域社会のニーズに応じたサービスを提供する取組として特色があり優れている。

肢体不自由養護学校における医療的ケアへの支援は、教職員、家族に対する指導等を通じて地域社会に貢献する取組として優れている。

心理教育相談室は、相談・指導を通じて健全な市民生活の環境形成に向けて取り組まれており、地域社会のニーズに応える取組として優れている。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

2. 目的及び目標の達成状況

特に優れた点及び改善点等

神戸大学公開講座について、定員充足率が平均8割以上で推移しており、来年度の受講希望について約8割が積極的な回答を示している点は成果を得ている。しかし、

資料や OHP、スライド等の使い方等について改善を求める意見が毎年見受けられる点や応募者が漸減傾向にある点で改善の余地がある。

高校生を対象に体験授業については、アンケートの結果等から満足度が高く成果を得ている。

高等学校に出向いて実施される出前授業については、参加した高校生の感想から満足度が高く成果を得ている。

「震災文庫」のインターネットでの公開について、学外からのアクセス件数をみると月別に増減はあるが漸増傾向にあり成果を上げている。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

特に優れた点及び改善点等

出前教室・体験授業・オープンキャンパスにおいて、参加者の意見等を聴取し、それぞれの運営組織で検討が行われている点は、改善のためのシステムとして優れている。

多くの取組について部局の自主性により実施されているため、多様なサービスが用意されている反面、全学的な調整等が十分でない企画も多く、また、個々の活動のノウハウが共有財産として十分に生かされていないことから、全学的に企画・運営・改善等を図る体制について改善の余地もある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。